

## メタンハイドレート開発実施検討会（第34回）

### 議事要旨

日 時：令和元年10月16日（水曜日）10時00分～12時00分

場 所：経済産業省別館9階944共用会議室

出席者（委員）：平澤座長、小野崎委員、木村委員、倉本委員、佐藤委員、栃川委員、  
本多委員、松岡委員、森田委員

出席者（事業実施者）：山本PM、天満PM、阿部PM、各TL他

議 題：

1. 海洋エネルギー・鉱物資源開発計画等について
2. メタンハイドレートの研究開発に係る実行計画（案）について

議事概要：

1. 海洋エネルギー・鉱物資源開発計画等について

（事務局）

海洋エネルギー・鉱物資源開発計画等について説明。（資料3）

（委員）

今年度よりコンソーシアムにJMHが加わったことは心強い。今後の商業化に向けたプロジェクトの開始のための推進力となる。これまでの知見をJMHへ引き継いでいってほしい。

2. メタンハイドレートの研究開発に係る実行計画（案）について

（事業実施者）

メタンハイドレートの研究開発に係る実行計画（案）について説明。（資料4及び6）

（委員）

長期陸上産出試験には非常に期待しており、コストと長期安定生産がポイント。経済性予測も行い、開発コストを低減できる見込みをつけることが重要。

（委員）

砂層型メタンハイドレートのフェーズ4期間中に、2つのマイルストーンを設定したことは評価出来る。

（委員）

産出試験の実施に当たっては、3次元での挙動に加え、時間軸も加えた4次元的なモニタリングが重要。

（委員）

第2回海洋産出試験から、メタンハイドレートの貯留層が均一でないということが分かったが、水溶性天然ガスの井戸においても、隣の井戸でもガス水比が異なり、非均質であるため、参考になる。井戸ごとに生産挙動が異なることを念頭に置いて、研究開発を行う必要がある。

(委員)

メタンハイドレートから取り出したガスを井戸から需要家へ供給する方法は、様々な方法がある。商業化に向けた検討をする上では、供給方法経済性や需要家の要望を踏まえた検討を行って欲しい。

(委員)

基礎試錐を行った日高沖では、BSR よりも深いところでガスが見つまっている。メタンハイドレートだけでなく、深部のガスを含めた資源開発を総合的に検討してはどうか。

お問合せ先

資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油・天然ガス課

電話：03-3501-1817